
隠された物語～記憶とそれぞれの関係

田中麻奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隠された物語〜記憶とそれぞれの関係

【Nコード】

N2328E

【作者名】

田中麻奈

【あらすじ】

十年振りに、毛利董は実家に帰ってくる。父親と異母妹は帰っていない。ソファで座り込んだ後、少年探偵団が事務所のドアを開け、やって来る。董はあることを話す、衝撃の秘密とは・・・

第一章「毛利董」第一話「米花町」（前書き）

オリジナルキャラクターの毛利董や様々なキャラクターが登場しますが、少しダークな感じですよ。

あと、評価しても構いません。

どう感じたかも書いてもいいですよ。

一番下の感想、評価フォームに書き込んで下さいね。

第一章「毛利董」第一話「米花町」

第一章「毛利董」もうりすみれ」

あらすじ

毛利董は十年振りに実家に帰って来る。

父親と異母妹の蘭がいなかった。

待ち受けていたところ、少年探偵団がやって来る。

写真を何枚が見せ、話す。

その時、灰原哀が・

1話：米花町「べいかちよう」

黒髪のおかつぱ頭、むらさき色の瞳、色が白く一見すれば女性に見間違える。

そのような姿、形で父親は公立高校に在籍し通学する腹違いの妹蘭「らん」と二人暮らしで探偵事務所を経営している。

でもしかし、そんなに客が来る理由「わけ」もなく継母である、妃有紀子「きさきゆきこ」とは別居状態。

そして、息子である董「すみれ」も十年程前から父親との関係が悪くなり遠く離れた愛知の尾張地区に現住所を置き、二年後に自動車の免許を取得し中古車であるが日産のラングラーを購入し現在も乗っている。

今日は、その車で長距離運転し十年振りに実家に帰って来たのだ。

実家のドアを開け、呆然としながらソファに座り待機していたところ少年探偵団がドアを開け、吉田歩美が「あれえ、お姉さん誰なの？」と董「すみれ」にたずねる。

「お姉さんじゃなくて、お兄さん。僕の名前は毛利董「もうりすみれ」。」と答える。

「君に見せておこうかなって写真があるんだ。」

と言いつい何枚か少年探偵団に何枚か写真を見せ、話す。

「これは、今から二十年前僕は6歳の時にあの二人の一貫生と写ったんだよ。銀色のミディウムで目の色が黄緑で背が高く、胸《バスト》がすでにEカップはあるのが三宅綾《みたけあや》、青の力《ル》とウェーブとした髪の毛に赤い瞳でとっても可愛い子で綾さんとは仲良しだった桂花弥子《かつらかやこ》二人とも、当時の年齢で12か13歳ぐらいだったような気がするんだ。」と長く語る。

「もう、二十年も経っていますから二人とも30代ですね。」と元

つづく

第一章「毛利董」第一話「米花町」（後書き）

ゴールデンウィークの終わりに書いたのですが、投稿のし忘れがありました。

第一章「毛利董」第二話「衝撃、血縁」（前書き）

二話あらすじ

毛利董は、少年探偵団に蘭の異母兄と明かし少年探偵団のメンバーと話す。

若いギャル系の女性とある二人の少年が事務所に入ってきて来て・・・

第一章「毛利董」第二話「衝撃、血縁」

第一章「毛利董」第二話「しょうげき、けつえん衝撃、血縁」

「ねえ、蘭のお姉さんとはどうゆう関係なの？」と歩美がたずねる。すると、董は「父親が同じで、母親が違うんだよ。」

そして江戸川コナン、円谷光彦、小嶋元太がおどろいた顔をして、「えっ、蘭さんの腹違いのお兄さん！」と驚愕する。

「ああ、君達の言う通りだよ。」と董《すみれ》は言う。

写真を何枚か見せながら、「僕の普段住んでいる、愛知県の尾張地区に黒の組織と思われる構成員が何人か目撃情報があつたんだよ。」と言った。

コナンは、「ジンとウォツカは周りの人達が見たのか？」と董《すみれ》にたずねる。

「確か、ぼくが野原天ノ助から聞いたんだけど実の父親と社長がその二人組と居酒屋で飲み会や取引しているのを保育士の女性やあつちこつちの人達に目撃されていたんだ。」

と董《すみれ》が言う。

灰原が「ベルモットは？」とたずねる。

「確か、二日前にその騒ぎがあつたんだよ。」

「どうやら、原因がね黒の組織やその等の組織のね絡みのトラブルで・・・」

光彦が「黒の組織やその等の絡みのトラブルってなんですか？」と董《すみれ》にたずねる。

「実はね、埼玉県内で黒の組織の構成員の未成年者やその子女達が埼玉県内で連れ去り事件の計画があつて公園である専業主婦二人の話が盗聴されていたんだ。」

と話す。

「嫌がらせの絡みの事件で、いろんな奴らが警察に事情聴衆に連れていかれてよう。」と元太は言う。

すると、董は「なぜ、あのことを知ってるの？」とたずねる。

「実は俺の種違いの姉ちゃんと言っただよ。」と答える。

その時、事務所のドアが開く。

ギャル系の女性が、「おじやましまーす、小五郎さんいる、黄桜とジンロがいるんだけど。」と言う。

緑色のストレートロングの少年と桜色のウェーブロングの長身の少年がその女性の右側にいた。

董《すみれ》はその二人に「怪しいんだけど、君達どうしたんだい？」

とたずねる。

第一章「毛利董」第三話「黒のペールとドレスとランジェリー」予知夢」(前書

あらすじ

毛利董は、黒い物が出でくる予知夢を見る。

奇妙な行動へ走るもの・・・。

第一章「毛利董」第三話「黒のベールとドレスとランジェリー」予知夢」

第一章「毛利董」第三話「黒のベールとドレスとランジェリー」予知夢」

僕は、もつりすみれ毛利董。

今から、二十年前三宅綾みたけあやという当時12歳だった銀色の髪の少女と出会った。

黄緑の瞳。

それはとても美しく、宝石のようだった。

背が高く、胸バストが大きくまるでグラビアアイドルようだったその体。ビキニもハイレグもよく似合っていた。

しかし、僕の脳の中に残っている記憶とは全く違う物だった。

僕の前に現れた銀色の髪を二つに分け、帽子を被り、黒のベールが顔にかかっており胸の開いた、黒のドレス、やたらと大きく谷間が堂々と見え黒のレースが見える。

僕は胸に触れ、上下、左右を押さえるようにして、離して揺らした。ドレスを脱がせる。

非常に大きくたわわな乳房を半分程包む黒いブラジャー、大きく丸みをおびた腰の下には黒のショーツが露わになっていた。

その時・・・

董すみれは異母妹の蘭らんの寝巻きを脱がせ、ブラジャーを上へずらし、揉みしだいていた。

「うーん、何か、誰かに、私のおっぱいを揉んでいるのは！」を怒り、董を床へ放り投げた。

「あああああ、綾すみれさああんが、夢の中に現れたあ。」と朝から大声を揚げ、叫ぶ董。

小五郎、コナンは「蘭ねえちゃん、どうしたの?」「蘭、^{すみれ}董どうしたんだ!お前ら二人、^{きょうだい}兄妹そろって・・・」と怒鳴る小五郎、それに啞然するコナン。

「あううう、劣悪だああ、夢に綾さんが出て、黒のドレスとその色のベールとランジェリーが出たんだ。」

「落ち着け!」と小五郎が怒鳴る。

「あ!、もうこんな時間。」と蘭。

「今日は、僕がつくるううう。」とうなり声をあげ、台所へ^{すみれ}董は移動する。

フライパンを一つ、取り出し消費期限ギリギリの肉やら魚、余った野菜を包丁で切っていき、肉と魚を炒め次に余った野菜と塩とコシヨウを入れ、味を着ける。

戸棚から皿三枚、取り出し盛り「できあがり。」と董は言う。

野菜はキャベツが固く、食べづらかったが、三人ともペロリと食べ、すぐに出かけて行った。

^{すみれ}董の異母妹の蘭と居候の江戸川コナンは学校へ二人の父親小五郎は探偵事務所へ移動した。

^{すみれ}董は、歯を磨き、着替え、乱れた髪を整えブラッシングをし屋外に出る。

そのまま、徒歩で歩き・・・

第一章「毛利董」第三話「黒のペールとドレスとランジェリー」予知夢」(後書

そのあと、スクロールすると評価のフォームへ入ります。

ご意見、ご感想よろしくお願ひします。

第一章「毛利董」第四話「黒のボルシェ356」（前書き）

四話あらすじ

黒い年式の古い外車が米花町商店街の車道付近に停まっていた。
毛利董、飽彦、灰原哀達が見張っていたところ・

第一章「毛利董」第四話「黒のポルシェ356」

第一章「毛利董」第四話「ポルシェ356と飽彦」

董すみれが徒歩で歩いていたら、米花町へいかちやうの商店街の歩道付近に黒い年式の古い黒い車が停まっていた。新宿ナンバーで、都内であることがわかる。

その時、董すみれはうつすら記憶の中に三宅綾のアルトの落ち着いた声が聞こえる。

今から、十四年前の出来事だった。

黒い年式の古い車、ボンネットの上に初心者マーク、青系統の開襟半袖シャツ、その色のスカート、白いハイソックスにCielの文字刺繍、紳士物の革靴。

それは、彼女が僕に向かって微笑んでいる姿が浮かんだ。

あまりには彼女が愛おしくて、その若い女性を追いかける少年飽彦あきひこの姿があった。

意外と彼女は画家や写真家には、注目の的で毎日のようにチャホヤされていた。

でも、しかし彼女は姿を消した。

彼女の実家に一度、たずねたことがあるが父親が医療関係者である女性と話していたのだ。

あの女性とは知り合いのようだった。

「彼女は性転換手術をしたいと、言い出していたの。性同一性障害である点が認められているもの。」とその女性は言う。

「娘が子を産む機能だけは、父親であるこの私が温存させてあげたいのだ。」と言う。

「乳房のみ、摘出という形ね・・・」と言い切った。

その時、董は彼女の声がホルモン剤の影響で声が変わっていく様子があった。

彼女は、表は非常に胸が大きく官能的なイメージとお嬢様な感じが強いのに対し、裏ではオレとか言っ、明らかにギャップがあった。

董の前ではオレと言っていた。

飽彦の前では私とか言っていたし、「飽彦、お前」とか言っていた気がする。

と董と飽彦が頭の記憶の中で印象的にそして、愛おしくも感じていた。

その時、灰原哀が・・・

「ジンの愛車、ポルシェ356A・・・」と言い放った。

董と飽彦が「あんな、路上に置いて・・・」

「警察が道路通行の邪魔になるって、すぐ撤去しちゃうんだ。」と言う董。

その時、黒のトレンチコート、白のハイネック、黒のスラックス、黒の紳士靴という井出達でその姿を現した。

「董くん、この人、三宅綾に顔がそっくり。」と言う飽彦。

「もうしかしたら、当の本人かもしれない。」と言う董。

董は、灰原哀に「ジンって、コードネームだよ、本名とか聞いていない？」とたずねる。

「まだ、彼の本名は聞いていないわ・・・。」と答える。

「僕、毛利董ってゆうんだけど、顔立ちが元テニスプレイヤーの三宅綾によく似ているんだ。」と言う。

その時、吉田歩美が「あつ、お兄ちゃん、望夢ってゆうんだよ。望むってゆう漢字にねえ、夢ってゆう漢字を書いて、望夢って読むんだ。」と話す。

「あの緑色の髪の毛の長い子のコードネームがジン口、この桜色のウェーブした長い髪の毛の子が黄桜らしいんだ。この間来たよ。」と歩

美に董すみれが話す。

飽彦あきひこが「あの二人の少年の本名は吉田望夢よしたのぞむ、もう一人がレオ・クラウンらしいんだ。」と言う。

第一章「毛利董」第四話「黒のポルシェ356」（後書き）

続くかどうか分かりませんが、シンロや黄桜などのナンバーが揃います。

次回をお楽しみに・・

第一章「毛利董」第五話「A secret makes a woman w

五話あらすじ

- 。 ジンとベルモットの秘密とそれにキラという少年が関わってきて・・・
- 盗撮映像が毛利董から灰原哀へ渡された。

第一章「毛利董」第五話「A secret makes a woman

第一章「毛利董」第五話「A secret makes a woman
oman woman」 Gin and Vermouth」

ジンとベルモットも同じ意味なのかもしれない。

その言葉が耳残りになった。

「A secret makes a woman woman .

」

その意味は、女性は秘密を飾って美しくなる。

その時、董は灰原哀にあることをたずねた。

「気になっていることがあるんだ、調査員から話を聞いていないのかな。」

「調査員から？無いわ。」と答える。

「実はキラちゃんが、盗撮した映像があってウォッカの素顔やら裸やらなんでもありだよ。」

言う董。

彼女にDVDを渡した。

「どうやら、ジンとベルモットの秘密もあるんでしょ。あと、ついでにキラって言う子ってどうゆう子なの？」とたずねる哀。

董はおもしろそうにキラのことを言いまくる。

「キラちゃんのフルネームはね、テリー・ザ・キラっていうんだ。

金髪のセミロングで赤い瞳で一見すれば女の子のようで声が低く落ち着いている子でね、伝説超人テリーマの正妻以外の子供でスカラン系のハーフラしいよ。おまけに、ジンとベルモットに向かっては妙なあだ名を付けたたり、揶揄するみたいだよ。」

「てゆうか、百合ってる。」と口真似をする董。

その時、事務所の電話が鳴る。

灰原哀が応答する。

「はい、もしもし毛利探偵事務所です。」

「Hello、アメリカから国電を掛けているよ、キラだよ。」と話す。

「あなた、ジンとベルモットの件だけと童すみれさんから話を聞いたんだけど、何か妙みょうなあだ名を付けるとか、揶揄みづするんだとか、何かあるんでしょ。」

と灰原哀はいはらあがたずねる。

「てゆうか、百合はなっているように感じるし、どっかの既婚女性の話だと部下の男性と距離を少し置いて、素の声で言う時があるんだ。」とキラは答える。

「俗に言う、二面性かな。切るね。」とキラは言い電話を切った。

第一章「毛利董」第五話「A s e c r e t m a k e s a w o m a n

テリー・ザ・キラも黒の組織の追っ手で巧みにギャル語や英語、敬語を使うキャラクターです。

第二章「テリー・ザ・キラ」第一話「車窓」(前書き)

前章からのあらすじ

毛利董の父親、毛利小五郎の探偵事務所に掛かってきた国際電話の
主はテリー・ザ・キラだったのだ。
キラが境遇した目撃情報の秘密。

第二章「テリー・ザ・キラ」第一話「車窓」

「第二章テリー・ザ・キラ」第一話「車窓」The car window.

黒の組織を三年は追っている。

あの少年の名前はテリー・ザ・キラ。

ある企業の幹部の長女片倉実花かたくらみかの車、マツダのデミオだ。その車に彼女の異母妹である、絵理と一緒に金髪紅眼きんぱつこうがんの少年は乗っていた。

その時、年式の古いポルシェ356が停まっていたのだ。キラは驚くべき光景を目にする。

キラが見たものは、明らかに変わったものだった。身体ラインが明らかに不自然な姿がキラの目に入ってくる。肩幅が広いのに対し、腰がやけに細い。

隣の金髪のウェーブロングの女性の姿も入ってきた。胸がやたらと開いたボディーツにブーツという格好で立っていた。

背後の大柄な男は黒のスーツに白のワイシャツ、赤のネクタイ、おまけに頭から顔にかけてヘルメットをかぶっている。

実花は、「相変わらず、父親が根回しがうまいからね。」と言い、イライラしている。

運転席の窓を開け、銀色の輝く、ストレートロングの長身の方に「邪魔になるから、さっさと車やバイクに乗れ!」と叫んだ。

その時、キラは「何か、気になることがあるんだ。」と実花に言う。「気になることはなんだ?」と実花はたずねる。

「ねえ、あの銀色のストリートロングの人、体のラインが不自然なんだけど、どうなの？」とキラは実花にたずねる。

「顔に見覚えがあってね、どうやら名古屋の借金取りと美人局をやっている元テニスプレイヤーの三宅綾だよ。」と実花は答える。

「三宅綾って、あの、れっきとした ×企業の社長の長女じゃん。

もう、十年以上父親と会っていないゆうことで有名の・・・」とキラは話す。

第二章「テリー・ザ・キラ」第一話「車窓」(後書き)

第二章「テリー・ザ・キラ」突入です。
みなさん、次話おたのしみ。

第二章「テリー・ザ・キラ」第二話「金と銀の美女」(前書き)

二話あらすじ

キラ少年が、米花町へ足を運んだ。

事務所へ来るが、董の姿は無い、その父親の小五郎と話合って・

第二章「テリー・ザ・キラ」第二話「金と銀の美女」

第二章「テリー・ザ・キラ」第二話「金と銀の美女」The gold and silver of beauties.

その時、毛利探偵事務所へ米花町まで来訪して来た。

「あのすいませんが、テリー・ザ・キラって言う者ですが・・・とたずねる。

「なんだ、お前は・・・」と細身の男はたずねる。

「あなたでもなくて、あの息子さんの董すみれさんに用があるんですがここで待っていていいんでしょうか？」とキラは細身の男にたずねる。

そのとたん、細身の男は・・・

「えつ、董すみれって俺の息子だけど、仲が良くなってね、こつち側もこともあつてねえ。」その男は話す。

「ぼくあの人のことは、少しは知っています。」とキラ少年は話す。写真の数枚キラが取り出し、説明をする。

「どうやら、なんらかのその脅迫やゆすりがぼくの所にも絡んでいるみたいなんです。」

「携帯電話でぼくの遠いスカラ星の舞花区で、黒の組織に学生名簿を売り渡すとか言つて来て交渉するなんて言つてくる奴がいて、ターゲットがコードネームがジン、ベルモットとか言つて相当、度が行っているんです。」とキラは話す。

「それで、なんか気になるのか？」と小五郎はたずねる。

「もう一枚の写真があります。」

その一枚の写真は携帯でいびり電話を掛けている彼女の姿が目についた。

威厳のある者から見れば、悪いと言つて遮るが「それにありつく者もいる。」

キラはもう一枚、写真を小五郎に見せた。

「この写真の件ですが、どうやら金髪の美女と銀髪の美女でしたよ。周辺の住民の証言で判明しましたよ。野球拳で裸になった姿の正体があの二人みたいなんです。」
とキラは話す。

つづく

第二章「テリー・ザ・キラ」第二話「金と銀の美女」(後書き)

ジンとベルモットでもしかしたら、何かあるかもしれない。

次話おたのしみ

評価、お願いします。

ランキングされます。

第二章「テリー・ザ・キラ」第三話「私生児」(前書き)

三話あらすじ

テリー・ザ・キラが某組織の構成員の一人「ジンロ」という少年の手がかりになる写真が毛利董に渡される。
その少年の衝撃なる生い立ちとは・・・

第二章「テリー・ザ・キラ」第三話「私生児」

第二章「テリー・ザ・キラ」第三話「私生児」The bastards

新聞紙に「少年探偵団、銃殺体発見。警察は他殺と捜査」という記事が掲載された。

その時、おそろしい程びっくりした者が紫の瞳、黒のおかつぱ頭の女性のような青年もつりすみれ毛利董の背後で紅の瞳、セミロングの金髪の少女のような少年が「夜中に銀髪の美しい女性に良く似た人でさ帽子をはずして見せてくれたの。そしたら、その後あとに部下の男の人の可愛い顔までサングラスをはずして見せてくれたんだ。」とキラは話す。

董は「写真、みせてよ。」とキラに物を見せるように頼む。

「なんだ、裸の写真やらエグイ写真もあるんじゃないか。」と董は言う。

明らかに、銀色の腰まで届くロングヘヤーの20代後半から30代前半の長身の女性の姿、ヌードや金髪の女優に似た女性のヌードやら16歳から18歳前後の緑色のストレートロングの少年「吉田望よしたのぞむ夢」の桜柄の着物、青の帯、白の足袋という井出達で写った写真。毛利董が前の「不気味なバラバラ殺害事件」の犯人「少年A」であることを思い出した。

桜色のウェーブロングに三つの特徴的な髪飾り、花ホップ柄の開襟シャツ、緑の半ズボン、黒のハイソックスという井出達で写った写真。

「女子高生銃殺事件」という犯人の少年Aでもあった。

毛利董はその二つの事件のこと、そして吉田望よしたのぞむの出生の秘密だった。

コードネームは「ジンロ」、韓国の焼酎の名前。

緑色のストレートロング、ダークブラウンの目の少年でジンのこと

を「ジン姉ねえ」と呼んでいる。
テリー・ザ・キラが「赤い着物でね、白い袴の時とコスプレして
いる時があるんだ。」

第二章「テリー・ザ・キラ」第三話「私生児」(後書き)

ジンロというのは、韓国のお酒です。

第二章「テリー・ザ・キラ」第四話「声くThe voice」(前書き)

四話あらすじ

愛知県の名古屋近郊のマンションへ実家のある東京米花町から帰宅し、落ち着いたひとときを過ごしていた矢先、テリー・ザ・キラから毛利董の携帯電話が掛ってきて・・

第二章「テリー・ザ・キラ」第四話「声」The voice

第二章「テリー・ザ・キラ」第四話「声」The voice

毛利董は愛知県尾張地区の自宅マンション2階に彼は住んでいる。

その時、携帯電話が掛かってきたのだ。

「はい、もしもしどちら様？」

「ぼくだよ、テリー・ザ・キラだよ。董さん舞花のコールボーイの
桜花おつかから話聞いてアメリカのテキサスの家へ行ったら、桜花おつかの母親
からの国際郵便が着きていたんだ。」

「あの、董すみれさん？」とキラが電話で応答する。

「ええ、十年以上前ともう何ヶ月も前と昨日と後、今朝も電話も掛
かってきて流石に大変だったよ。」と董すみれは話す。

「ええっと、最初に十年以上前のことって一体どういうことなんで
す？董すみれさん。」とキラはたずねる。

「さあ、子供は生きてるかどうかわからないけど、たしか僕の2
0年来の知り合いの女性でねたしか下の名前は綾あやでたしか、ある男
性と結婚して「島綾しまあや」で旧姓は「三宅みたけ」でコードネームはジンって
いうのは十年以上前から聞いていたよ。」と董は話し、キラがその
時「ああ、僕、見たことがありますよあの女の人本当に酔っぱらっ
て・・・」とキラは話す。

「この間、電柱にぶつけて胸に当たって、全然平気でしたよ。後、
部下の男の人が連れて行きましたよ。」

「ああ、僕、知ってるよ。部下のウォッカとあともう一人・・・い
るんだけど・・・謎の人物だね。」と董すみれは話す。

その時、キラは「この間、見ましたよ。黒髪のノーマルピュアの僕
と同じ年の女の子で、苗字が東京で少しは見かけるような「一之瀬いちのせ」
で下の名前は教えてくれなかったんです。何か隠し事があるみたい
なんです。」とキラは話す。

第二章「テリー・ザ・キラ」第四話「声くThe voice」(後書き)

夏休み中なので、宿題の量も冬休みより多いのだそうです。

あと、ついでに評価フォームがあります。

このフォームに書いておいてください。

お願いします。

第二章「テリー・ザ・キラ」第五話「予感」(前書き)

この作品に関して

一之瀬そらという人物が登場します。

十四歳の母の未希の子供です。

2020年には14歳になります。

第二章「テリー・ザ・キラ」第五話「予感」

第二章「テリー・ザ・キラ」第五話「予感」〈The presentation〉

実は、彼女のことを知ることになったのはそれから何日かした後だった。

調査員がどうやら東京都の教育委員会や各法人から情報公開が求められたらしく、新聞のお尋ね者リストや全国の新聞の三面記事にこのような内容の記事が掲載された。

一之瀬《いちのせ》そら

生年月日 2006年12月23日

出生地 東京都多摩市

身長 147センチから157センチ

体重 38キロから48キロ

失踪当時 6歳

情報提供をお願いします。

という記事が掲載された。

その当時の写真と同じように掲載された。

キラは、「いくら、写真があってもたよりないし、顔を整形している可能性がありそうだけど経年でかわっている可能性があるし、やっぱり美容整形外科に問い合わせてみると思いますか。」とキラは決意した。

まずは、東京の新宿にある美容整形外科の病院に携帯でダイヤルし
てずねてみることにした。

「はい、N美容外科です。」と受付の女性は言う。

キラは「ちよっと、おたずねしますけど、10代か20代のね若い
一之瀬いちのせそらっていう女性の方、ここの美容外科病院に電話してきた

か、来ましたか？小さなことでもいいですから教えて下さいよ。」
とキラはくだけた言い方でたずねた。

受付の女性は「お名前を教えてくださいませんか？」とキラにたずねる。
「ぼくの名前はテリー・ザ・キラ、綴りはT、E、R、R、Y、ザ
のところはT、H、E、キラのところはK、I、R、Aです。」と
キラは答える。

その時、キラはあの一之瀬そらのコードネームを知ることとなる。
何者かの予感がしていた。

第二章「テリー・ザ・キラ」第五話「予感」（後書き）

テリー・ザ・キラというのはスカラ星のペンギン区4月1日村生まれです。

髪の毛の色は、ゴールドンブロンドで目の色が赤です。

超人の血を引いています。

身長は178センチです。

年齢は14歳です。

本籍はアメリカテキサス州アマリロです。

第三章「吉田望夢」第一話（前書き）

あらすじ

ジンの子飼いされている緑髪の少年コードネームは「ジンロ」「今回
は、「ゲラツパ」の実家で待ち受けていた。

第三章「吉田望夢」第一話

東京都世田谷区・・・

朝日が丘・・・

ここは、ゲラツパこと野沢桐のさわきりの実家だった。

僕は、ここで子飼いにされている部下の一人であることを桐きりの異母妹のリカちゃんに明かした。

「あのね、リカちゃん、もうすぐ、僕達の上司の幹部が来るんだよ。」

「ねえ、どういう人、教えて？」

「それは、来てからのお楽しみ。」
と言った。

そういう、状況が十年近くも続いている。

僕と同期で入ってきたウオツカさんも、「ジンロも黄桜も、俺と同期だし、十年前なんか同じ組織にいたと言ったら、周囲の奴ら啞然としたもんだ、今じゃ、それが誇りだもんな。」と喜んで言った。

「ボクは、少し後から入って来たし、最初は慣れなかったんだもん。」とコザックも・・・

今はとても落ちついている。

五、六年前、ジン姉ねえに連れて来られる形で組織にはいったその少年も彼女を慕っている。

「ウオツカさん、黄桜さん、ジンロさん、コザックさん、もうそろそろ、ジン姉様が来てもいい頃ですね。」と話した。

箱のような家の玄関先にその少年は出た。

その時・・・

ジン姉ねえじゃなかった。

「あなたは、誰なんですか？」と桐少年はいった。

「江戸川コナンと少年探偵団です。」と彼らは言った。

見覚えのある少女がここにいた。

吉田歩美だった。

「アハハ、ジン姉様じゃなくて、君達だったんだね。」と桐少年は笑いながら言った。

その時その少女は、「ジン姉様って誰なの？」とたずねられた。

「えっと、それは、ひ・み・つ。」と桐は言った。

「教えてよ。」とその少女は言い、少年三人はわいわいと騒ぐ。

第三章「吉田望夢」第一話（後書き）

そうかもしれませんが、ジンの部下が何人かいます。

一応、分かっている点がありますが、はっきりしません。

第三章「吉田望夢」第二話（前書き）

あらすじ

吉田望夢ことジンの口はある女性と一緒に埼玉の混浴温泉へ出かけることとなったでもしかし・・・。

第三章「吉田望夢」第二話

第三章「吉田望夢」・・・「母親」

僕は、埼玉の混浴温泉にいた。ある女性と一緒にいるのだ。

僕はある書置きをし、あの女性と一緒に写った写真と一緒に添える。親愛なる妹、母親へ

僕は上の女性と一緒に埼玉のある混浴温泉こんよくおんせんへ行つて来ます。

妹の歩美へ、あの写真の女性と会ったら僕の事を話しておいて下さい。

お母さんへ、あの女性は、僕の今いる組織と同じ組織でコードネームはジン（Ginn）って言うんです。僕はその女性の部下ひもとで、ほかにも黄桜、ゲラツパ、いいちこ、白乾龍バイカル、コサツク、もいます。

もし、なにかあったら、ここに連絡をして下さい。

TEL03-XXXX-XXXX

その添えられた写真はその女性と一緒に沖縄でバカンスした時のものだった。

女性のビキニ姿、かなりの長身で胸が大きく、僕と肩を組むようにして写ったものである。

きつと、母親が見たら流石に驚くだろう。

僕はそう思いつつジン姉ねえと一緒にここにいる訳だ。

その女性は僕の裸体のすぐ近くにいる。

その大きいたわわな乳房、男と手玉に取りそうなその美貌、その美しさを強調させる銀髪、吸い込まれそうな黄緑色の瞳そして低音で自分の母親より優しいアルトで僕も強く引き付ける。

ウォッカ先輩は、そのような姿を見たら惚れ惚れしてしまいそうだ。兄貴じゃくて姉貴と呼びそうな雰囲気なんだろうなと僕は確信できそう思ったからだ。

第三章「吉田望夢」第二話（前書き）

あらすじ

ジンロこと吉田望夢は上司であるジンこと三宅綾そして何人かと一緒に埼玉のある混浴温泉に旅行・・
そこでとんでもない出会いがあった。

第三章「吉田望夢」第三話

第三章「吉田望夢」第三話「出会った少年」
僕がジン姉ねえと一緒に浴場から出た・・・。

その時、僕はある何人かと目を合わせた。

あのジン姉ねえに意図的に小さくされた男子高校生、工藤新一だった。
現在は江戸川コナンとして生活を送っている。

僕は組織内ではコードネームで呼び合う。

もし、「ジン姉ねえ」と小言で言った。

僕はあまり声が聞こえていないから、大丈夫かと思った。

その時、十歳以下の幼い少年少女がワーとやって来た。

ワイワイと声で騒ぎながら、僕とジン姉ねえが通り過ぎようとしていた
その時、あの出会った少年に見破れた。

「君の口の動きで分かったんだ、「ジン姉ねえ」って・・・男性のはずだよね。」と一回たずねられた。

「いや、それは話すと当の本人のフライバシーに関わる事になるから・・・、ダメなんだよ。」と僕はおそろおそろ答えた。

それはジン姉ねえの身を案じての事だった。

内縁の男との間に子供がいる。

その内縁の男は地位があり、離婚歴があるが入籍ができるものの彼女が入籍上何らかの問題が生じるためだと思えば入籍しないでいる。

絶対そういう事は流布する恐れがあるため絶対姉の死がキツカケで失踪したシエリーこと宮野志保そして灰原哀あいに「何故、姉である明美が殺されたのか。」という話さなければいけないという思いが僕の中で交錯した。

「アハハ、君ね・・・、勘違いしないでくれる、僕だってね・・・、色

々任務があつて、週に4回は組織に出向いて出勤しているの。」と
僕は緊張気味に答えた。

「君、お父さんから聞いたけど・・・。」

第三章「吉田望夢」第四話「複雑な感情」(前書き)

歩美ちゃんが、異父兄の望夢に対しての複雑な表情があります。それは苦手な人はプラウザバックして下さい。

第三章「吉田望夢」第四話「複雑な感情」

「ジン姉、工藤新一という少年が僕の事を嗅ぎつけて・・・」
僕は内心、混乱し少し取り乱していた。

ジンは「お前は部屋に戻れ、私はその少年を追っ払うから。」
だと言い、望夢を少し宥めた。

「落ち着け、妹の歩美にそう言うておくからな・・・。」
と何かしら威圧的ではない。

浴衣の胸の部分が開け、揺れて零れてしまいそうな二つの乳房が合
わさった谷間が見える。

僕は、一瞬ポロリをやるのかと思ったが目を小さくなった少年工藤
新一に合わせた。

「ジンロが少し、混乱している、あまり嗅ぎつけるのはやめておく
れ。」と優しく諭した。

シエリーも半信半疑であったが、私より胸が大きく、身体的に大柄
であった点も目に付いていた。

銀色の長い髪をヘアピンで、何か所に留め、下の長い髪を紐で下に
やった。

僕はそのそばで、無言でその直後にテレビを点けこの時間帯のUS
局の番組やネットの本局の番組を観た。

その数分後、「歩美ちゃんに不審な女性が付きまとってる。」とい
うのが博士の他、毛利蘭の耳に入ったのだ。

「ちょっと、歩美ちゃんに何するの？」と蘭はジンと思しき人物に
尋ねた。

「いや・・・、ちょっと、あの子に用があるんでねえ・・・。」と途
切れ途切れに言った。

「私ねえ、あの子のお兄さんの上司なんだよ。」
と言い、その場を少し小走り去った。

小嶋少年は「歩美ちゃんの兄貴ってどういう奴なんだろう?」と疑問に思い、「なかなか、あの人来ませんよね。」とパツツン頭の少年も言う。

「望夢お兄ちゃん、お母さんとお祖母ちゃんとはあまり仲が良くないんだ。」と少し、鬱気味に歩美は言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2328e/>

隠された物語～記憶とそれぞれの関係

2010年10月15日22時36分発行